

日野町における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、誰ともつながらず、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいない孤立家庭が増え、育児への不安やストレスを抱える親が増加傾向にある。

また、生活習慣の乱れや経済的な困窮などの課題を抱えた家庭は、コロナ禍でより一層増加の一途をたどり、家庭教育支援の必要性がますます高まっている状況にある。

■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

これから親になる方や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、学習機会や仲間づくりの場の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。そのために、あらゆる手段を駆使し子育て家庭を地域と結びつけることが必要である。



【親子ふれすて】

■本年度の活動

（１）交流の場「親子ふれすて」の開催

毎月１～２回、親子が遊びを通してふれあうと同時に、親同士や子育てサポーターと交流することで、情報交換や子育ての悩みの解消の場となっている。

（２）学習講座の実施

- ・子育て学習会・・・保育園・こども園・幼稚園・小学校・中学校（計１０講座）
- ・就学前学習講座・・・全小学校（５校）で年１回
- ・マイナス１歳からの子育てを楽しもう（講座）・・・１講座
- ・子育て親育ち講座・・・２講座

（３）地域人材の育成

- ・子育てサポーター養成講座・・・２講座

（４）訪問型家庭教育支援

- ・ケース会議の実施。支援員交流会を開催し、情報共有にあたっている。
- 今後、家庭教育支援員の確保に向けて、より一層の周知・広報に努める。



【マイナス１歳からの子育て講座】

■本年度の成果

- ・親子ふれすての開催により、保護者同士のつながりが生まれ、交流や情報交換の場として、子育ての悩みやストレスの解消につながった。
- ・各種講座の開催により、子どもとの関わり方や成長段階に合わせた接し方などを保護者に学んでもらうことができた。
- ・各事業の実施にあたり、学校や関係課と連携して取り組み、多角的に充実した支援を行えた。
- ・子育てサポーターとして、合計１２名のサポーターにより年間の活動を実施することができた。
- ・学校では行き届かない第三者との関わりがあることで、新たな切り口からの家庭教育支援ができた。
- ・家庭教育の受け止め先が増えた。

■今後の課題

- ・各種事業への参加者が固定化している傾向にあるため、これまで参加したことのない親子の孤立を防ぐため、各関係機関との連携や未参加親子への情報発信を強化する必要がある。
- ・支援者の確保に努め、地域とのつながりを増やす努力が必要である。

報告記入者（生涯学習課 職員）

「ゆっくり大きくなあれ」 ～子育て・親育ちを支える就学前学習講座の開催～

日野町	本事業実施年度 令和5年度
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施 	
年間活動日数 (のべ)	(43 日)

家庭教育支援員や支援チームに関すること	
A : 家庭教育支援チーム数	(1) チーム
B : 家庭教育支援員数	(3) 人
C : 家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数	(3) か所
D : 前項 (C) の配置場所名	(日野小学校、必佐小学校、日野中学校)

■ 活動の具体的な内容

○地域人材の養成等

子育てサポーター養成講座…2回

○家庭教育支援チームの設置・活動等

子育て支援チーム会議…6回

○学習講座・行事の実施

子育て・親育ち講座…2回

親子ふれすて…12回

わくわく広場…1回

就学前学習講座…5回

P T A子育て講演会…10回

マイナス1歳からの子育てを楽しもう (講座) …1回

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

訪問型家庭教育支援ケース会議…複数回・子育て支援チーム会議…6回

○保護者に対する情報提供等

子育て応援通信「ゆっくり大きくなあれ」(毎月1回発行)

○訪問型家庭教育支援の実施等

■ 特徴的な活動内容

○家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会 (授業参観、1日入学など) に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。

○これから結婚や出産を迎える方や乳幼児期の子育て中のお父さんお母さんを対象として、命が宿るマイナス1歳から、子どもの成長・発達について学ぶためにマイナス1歳からの子育てを楽しもう (講座) を開催する。

■ 実施に当たっての工夫 (コロナ禍における工夫・対応等)

○子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」(毎月1日発行) を庁内の子育て関係課 (日野町子育て支援チーム) が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

○「親子ふれすて」では、近年災害が多いなか、家庭でも無理なく取り組めるよう、日常的な備え (ローリングストック) の重要性や、非常時でも役に立つ調理方法を身に付ける機会として防災ちびっこクッキングを開催した。

■ 事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「子どもへ寄り添うことの考え方が変わった」「講座を受けたことでもっと子育ての勉強をしていきたい」など概ね高評価を得ている。

○P T A等子育て学習会

多くの親に子育てやしつけなどの家庭教育のあり方を見つめていただける機会となった。家庭教育の関心の少ない親にも家庭教育について考える機会を提供することができ、今後の子育てに対する事前学習となった。

○マイナス1歳からの子育て講座を楽しもう (講座)

出産前から両親がしっかりと学習することで、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、ワンオペ育児の抑制に大きな効果があると思われる。

■ 事業実施上の課題

○親子ふれすて

内容により参加人数にバラツキが生じており、参加者ニーズをいかに把握できるかが重要となる。参加者が固定化しつつあり、初めての方でも参加しやすい雰囲気となるよう子育てサポーターと連携・協力して取り組みたい。

○子育てサポーターの育成

子育てサポーターが支援者として保護者と信頼関係を持ち、相談等に対応できるよう、事業やセミナー等への積極的な参加を促したり、第2回子育てサポーター養成講座を行うなど、しっかりと育成していく必要がある。



【 わくわく広場 】



【 就学前学習会 】